

実践人

森 信三・創刊

令和元年(2019) 9月号 No.754

「コラム」一回で終わる

一回で終わる



木南 一志

令和という新しい時代

はどうですかと、百年後の子孫が聞いてきたらどう答えますか。

明治という大変革を越えてきたあの時代はどうであったかと思えます。その日その日を懸命に生き切るこそ、本気で生きた証になるのではないかと江戸から明治にかけての書物に触れると感じさせられます。

働き方改革で休みばかりが増えて、仕事を通じて人間を磨くことなどとても難しい時代背景になってきました。我が国には、人生の中で一番時間を使うのが「仕事」ですから、そこで人間形成もなされていくとしてきた歴史があります。

私は複写ハガキを書いてご縁のある方とやり取りをしています。ハガキは、相手の時間を取らないツールでも

ありますので、届いたハガキといつ向き合おうと自分の自由です。最初は一枚書くのに、ああでもない、こうでもない

と悩んで時間ばかりがかかっていました。今は五分あれば一枚書けるくらいになりましたから、日に十枚くらいは書きます。暑いですね。寒いですね。という内容はできるだけ書かないようにしていますから、枚数だけを目指しているわけではありません。ハガキという限られたスペースに自分の思いや考えを相手の方に伝わるようにと考えるだけで、とても簡単にできることではないとわかっていただけは幸いです。それもぶっつけ本番ですから、それなりに失敗を重ねてこないことは、五分で一枚など、そう簡単にできるようにはなりません。以前は、社員の誕生日に間に合うように届ける誕生日ハガキを書いておりました。今は、S-DEC運動の無事故、無違反達成時のハガキとなっていますので社内向けは

けはずいぶん減りました。

このハガキを通じて気づかされたことがあります。ぶっつけ本番の一回限りということ。この真剣さが「仕事」にも言えるのではないかと思うのです。一回で確実に自分に与えられた「仕事」を終える。その為には、実力を磨かないとミスやトラブルを生んでしまいます。実力を磨くために何が必要か。それは小手先の技術ではありません。技術力も大切な要素ではありますが、それよりも大切なことがあります。そこを見つげ出すのが「仕事」でもあるのです。

いい「仕事」を通じて、世の中を良くする人になりましょう。

(〒678-4343 兵庫県たつの市新宮町大屋六六八-十二)

※S-DEC運動

日常の私生活の運転も含めて、無事故・無違反4000日達成を目指すという取り組み。